

令和4年度 授業づくり総括 および
次年度の計画について

1. 令和4年度 授業づくりの目標

生徒が「自ら学び、自ら考える」ようになる問いや仕掛けの実践と検証

2. 目標達成に向けた取組

- ①各教科にて、昨年度立てた計画に基づき、授業実践を行う
- ②実践した授業を蓄積し、教科会議等で共有し、新たな実践を積み重ねる
- ③授業実践の中で出てきた課題について、教職員研修などで知見を深め、授業の改善にいかす
- ④次年度の準備を整える(開校初年度の計画の完成)

【令和4年度の授業づくり年間計画(ロードマップ)】

日時	内容	参加者
5月12日(木)	<p>OL-pod シミュレーション研修(校内モデル授業)兼 第1回教職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・L-pod(広さ、複数担当、参加生徒40名以上)を想定した授業実践研修のモデル授業を実施する。さらにこの授業実践を全教職員で参観し、開建高校での学びのイメージを固める。 ・塩瀬隆之氏(京都大学准教授)を特別講師として招き、「生徒が考え、行動する」という観点で、授業を振り返り、改善する。 ・生徒が「自ら学び、自ら考える」授業の構築に向けたワークショップを行う。 	全教職員
6月2日(火) ~24日(金)	<p>○第1回授業研鑽週間(授業デザインの実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、任意の担当講座について「公開授業一覧表」に「ねらい」「生徒が思わず考えてしまう問いを使って、対話を活性化させることで、どのように学びを深めることができるのか」を記入し、公開期間の重点講座を設定・実施し、「参観レポート」によるフィードバックを行う。 ・この期間の授業についての生徒の意見も集約するものとする。 ・さらに、6月22日(水)の放課後に研鑽週間振り返り会を実施し、教科を超えて研鑽週間の振り返りを行う。 	全教職員
	<p>7月の研修会に向けて、各教科内で研鑽週間の振り返りを行う。</p> <p>(観点)</p> <p>生徒が思わず考えてしまう問いを使って、対話を活性化させることで、どのように学びを深めることができるのかについての実践がどうだったか →数ある実践の中で、意義深かった手法等について共有し、さらなるブラッシュアップを検討する</p>	全教職員
7月21日(木)	<p>○第2回教職員研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・塩瀬隆之氏を再度特別講師として招き、研修を行う。 ・全教員が各教科の面白いと思う授業を「複数人」で実践し、教員同士で研鑽し合う。 ・複数人での授業を塩瀬氏による振り返りの観点で見直し、協議する。 	全教職員

	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学期の実践から、 ○「問い」によって対話を活性化し、学びを深める授業 ○複数人で担当する授業 の手法について振返る。 ・2 学期以降の授業計画のブラッシュアップ、L-pod での授業の想定を行い、9 月の研鑽週間に備える。 	全教職員
9 月 12 日(月) ～30 日(金)	<p>○第 2 回授業研鑽週間(授業デザインの実践)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、任意の担当講座について「公開授業一覧表」に「ねらい」等を記入し、公開期間の重点講座を設定し、実施する。 ・教職員は他教科を中心に 2 回以上授業を参観し、「参観レポート」によるフィードバックを行う。 ・6 月と同様、研鑽週間振返り会を設けて、教科を超えた振返りを行う。 (外部への公開⇒9 月 13 日(火)) 	全教職員
10 月 17 日(月)	<p>OL-pod シミュレーション研修 兼 第 3 回教職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○5 月から 9 月までの授業研鑽の取組を総括し、次年度、どのような授業を行うのかを具体的に考えるうえでの前提や、今後の授業研鑽の方向性を確認し、共通認識を図る。 	全教職員
10 月 18 日(火)	<p>○市立高校合同授業研修</p>	教科で参加
11 月末	<p>○次年度の授業計画(シラバス・指導計画など)の完成</p> <p>※令和 5 年度 2 年生(塔南生)用のシラバスも作成完了</p>	全教職員で準備
3 月 16 日(木)	<p>○各教科の今年度の実践の総括を全体で共有(第 4 回教職員研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開建高校での学び」をまとめ、特に協創 I(総合的な探究の時間)での教師の指導の在り方についての共通理解を図る。 	全教職員
1～3 月	<p>○令和 5 年度開校に向けた準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年度年間指導計画(シラバス)を再度見直し、ブラッシュアップ。 	全教職員

3. 各取組の総括

①各教科にて、昨年度立てた計画に基づき、授業実践を行う

→昨年度立てた計画の実施を検証するフローができておらず、各教科に任せる形になってしまっていた。

昨年度の計画は L-pod を想定した広いスペースを効果的に活用した授業の案をテーマとしており、実施教室等の観点から実施が難しかった教科も多かったよう。立てた計画は次年度 L-pod で実施することを見越し、さらに練り上げる。

②実践した授業を蓄積し、教科会議等で共有し、新たな実践を積み重ねる

→2 回の研鑽週間や 7 月に行った第 2 回教職員研修における教職員による相互授業等、授業を構想、実践する機会は例年に比べ豊富であった。他教科の授業など、普段は見る機会の少ない授業を見ることで、自教科の指導の在り方を見直すことになったという声も挙がっていた。

しかし、実践の蓄積、さらなる改善とその実践という流れを学校全体で作ることが難しかった。各教科での共有と実践を求める程度で、「教科次第、個人次第」になってしまった。今後はより一層、各教科での会議にて振返りを行っていくべきである。後述するが、研鑽週間や教職員研修等同士のつながりを意識し、教科や個人によらないチームでの指導体制を基にした授業改善の仕組みを整える。

③授業実践の中で出てきた課題について、教職員研修などで知見を深め、授業の改善にいかす

→「授業実践の中で出てきた課題」についての研修までは至らず。しかし、特に第3回教職員研修では、「関係性」というキーワードを使って、目指すべき「生徒が自ら考え、学ぶ」ようになっている状態を全教職員で確認することができたことには大きな意義があった。どのような目的が必要か、ある場面で「タテ・ヨコ・ナナメ」のどの関係が成立していることが好ましいのか等、授業を構造化する際の視点を共有できた。

このキーワードをもとに、次年度は教職員研修と日々の授業との関連をより強め、計画的に授業づくりを進める。

④次年度の準備を整える（開校初年度の計画を完成させる）

→令和5年度生のシラバス（R5～7）を完成した。しかし、文言化する中で生じる複数の「練り切れてなさ」が露呈した部分もある。生徒観もわからない状態での計画ではあるが、生徒に学びの意欲を喚起させるような文言に修正し、開建高校開校を迎える。それとともに、まだ見ぬ生徒やL-podを代表とした各種施設の実態・可能性を吟味しながら、柔軟に計画を変更するという選択肢も視野に入れ、授業準備を整える。

全体総括

今年度および昨年度までの取組の中で、「授業」そのものについて考えることができた。昨年度までは「考える（思わず考えてしまう）授業」、今年度は「学び」という文言が意識的に入った、「自ら考え学ぶ授業」と銘打ち、共有を図った。「問い」を意識した授業設計、「生徒・教員・教材」の「関係性」というキーワードを意識した授業の構造化等の研修を通して、今後どのような観点で授業研鑽を行っていくのかという方向性を確認することができた。

しかし、方向性の確認が中心となり、具体的に授業をどのように改善していくのかについてあまり触れられなかったこと、研鑽週間等を通して「研鑽し合う」ということが難しかった点など、課題も多い。

今後は具体的に授業を深めるツボ（視点・手法）の共有（下記参照）、組織として授業改善を図ることができる振り返りの手法の確立を行い、実践がさらに次の実践につながっていくような素地・文化作りに注力する。

〈授業づくりを深める段階〉

I：「授業」ってなに？どんな授業をめざすのか？ ⇒ 「生徒が自ら学び考える授業」 R3、4年

II：Iのような授業を実施する上での意識 ⇒ 「問い」への意識、「生徒・教員・教材」の関係性 R4

III：さらに授業づくりを深めていくツボ（視点・手法）の獲得 ⇒ R5

※授業づくりを深めていくツボ（視点・手法）

参考：『授業づくりの深め方』石井英真

A「（授業の）目的・目標の明確化」・・・実践の出口の生徒の姿をイメージする

B「教材・学習課題のデザイン」・・・目標を達成するに値する教材・課題を吟味する

C「学習の流れと場の構造の組織化」・・・授業は流すものではなく、「展開する」もの 学びの環境への意識

D「技とテクノロジーによる働きかけ」・・・生徒への発問や生徒との対話の技法、様々な設備の最大化

E「評価を生かす」・・・指導以前の、目標と評価の一体化 大切だが、目に見えづらい学力を評価する手法

IV：組織として、実践を有意義なものとして振り返る手法の共有 ⇒ R5

「やりっぱなし」にしないためにどうするか？ ⇒ 授業公開者が「公開してよかった」となる振り返りの手法

4. 次年度に向けて

今年度の総括をふまえ次年度は以下に挙げる取組を通して、授業づくりを深める。

① 授業を深めるツボを全教職員で共有し、実践および見学・改善の際に意識する。

⇒教職員研修にてツボの確認を行い、創意工夫を凝らし、授業実践、その公開、意見交換、改善を行う。（できる限り早めの教職員研修の実施、授業公開の仕組みの構築）

②振返りの手法を全教職員で共有し、有意義な実践とその改善を可能にする。

⇒教職員研修にて振返りの手法の確認を行い、日々の実践の振返りにも活用できるようにする。

(①の研修の実施後、教職員研修の実施)

〈授業づくりを深める計画〉

月	授業づくりを深める取組	その他の活動・出来事
4	第1回教職員研修 授業づくりを深めていくツボ	
5		
6	公開授業 教員1人 年2回実施	
7		
8		オープンスクール
9		学校説明会(中学生の授業体験)
10		学校説明会(中学生の授業体験)
11		R6 シラバス完成
12	第3回教職員研修(冬休み最初) 各教科の実践報告会	
1	教科内総括 次年度に向けて	
2		
3		R6 評価規準完成

第1回 L-pod シミュレーション研修 兼 第1回教職員研修会について

【日時 場所】

5月12日(木) 13:30~16:30(片付け含む)

塔南高校旧体育館

【ねらい】

実際に L-pod の空間を再現し、各教科における「考える授業」および「L-pod の効果的な活用方法」の授業実践を参観することで、L-pod での授業イメージを持ち、自教科での授業デザインに活かす。

授業づくりに関するワークショップを行い、授業のさらなる改善につなげる。

【内容】

1. 理科による授業 13:30~14:20

「こいくち醤油とうすくち醤油では、どちらの方が塩分濃度が高いかを科学的にどう調べるのか」という問いに対する自分の意見が、自他の意見のよい点を言い合ったり、足りない部分を補い合ったりする中で、より洗練され、最終的に個の学びが深まるまでの過程を授業で行う。

休憩(10分) → 生徒放課

2. 教職員研修 14:30~16:10

・外部講師紹介(塩瀬隆之氏 京都大学総合博物館准教授)

・授業の振り返り

→①「生徒が自ら考え、学んでいる」状態を作り出そうとした理科の実践はどうだったかについて、授業担当者から振り返り行い、全教職員が各自考え、周囲で共有する

②授業の実践について、塩瀬氏から「生徒が考え、行動する」という指導の在り方についてサジェスションを受け、改善案を検討する。

・教職員研修

→理科の実践と塩瀬先生からのご意見を踏まえ、「生徒が自ら考え、学んでいる」状態を作り出すには、どのような工夫ができるかについて、ワークを交えて研修を行う。

第1回 L-pod シミュレーション研修 兼 第1回教職員研修会について

【日時 場所】

5月12日(木) 13:30~16:30(片付け含む)

塔南高校旧体育館

【ねらい】

実際に L-pod の空間を再現し、各教科における「考える授業」および「L-pod の効果的な活用方法」の授業実践を参観することで、L-pod での授業イメージを持ち、自教科での授業デザインに活かす。

授業づくりに関するワークショップを行い、授業のさらなる改善につなげる。

【内容】

1. 理科による授業 13:30~14:20

「こいくち醤油とうすくち醤油では、どちらの方が塩分濃度が高いかを科学的にどう調べるのか」という問いに対する自分の意見が、自他の意見のよい点を言い合ったり、足りない部分を補い合ったりする中で、より洗練され、最終的に個の学びが深まるまでの過程を授業で行う。

休憩(10分) → 生徒放課

2. 教職員研修 14:30~16:10

・外部講師紹介(塩瀬隆之氏 京都大学総合博物館准教授)

・授業の振り返り

→①「生徒が自ら考え、学んでいる」状態を作り出そうとした理科の実践はどうだったかについて、授業担当者から振り返り行い、全教職員が各自考え、周囲で共有する

②授業の実践について、塩瀬氏から「生徒が考え、行動する」という指導の在り方についてサジェスチョンを受け、改善案を検討する。

・教職員研修

→理科の実践と塩瀬先生からのご意見を踏まえ、「生徒が自ら考え、学んでいる」状態を作り出すには、どのような工夫ができるかについて、ワークを交えて研修を行う。

【当日の流れ】

(当日は木曜3456授業)

11:50 準備(1)(下記参照)

12:40 各クラス帰りの HR(掃除なし)

13:00 準備(2)(下記参照)

13:25 塩瀬氏ご入場(13:15 来校)

13:30 授業開始

14:20 授業終了

→生徒はそのまま放課

14:30 教職員研修(尾崎校長 初めの言葉)

16:10 研修終了(尾崎校長 終わりの言葉)

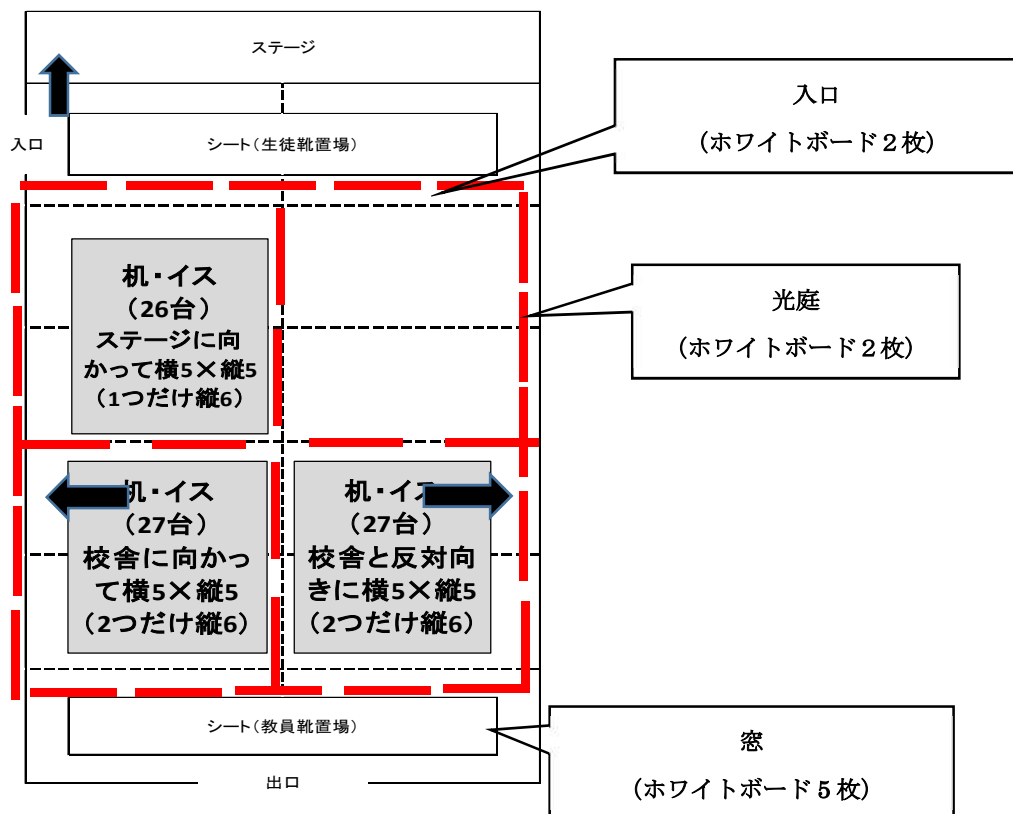
→塩瀬氏ご退場

→片付け(下記参照)

16:30 撤収完了(部活動開始)

【旧体育館見取図】

ホワイトボード



第2回 教職員研修 実施要項

【ねらい】

- ①L-pod を想定し、生徒が自ら学び、考えることを促すために、各教科が複数教員での効果的な指導の案を多く提示することで、全教職員がL-podでの授業のイメージをより明確にする。
- ②6月の研鑽週間でねらいとした「思わず考えたくなる問い」をさらに練り上げ、教科ごとに実践することで、新たな授業研鑽の視点を獲得。

【概要】

○日時…7月21日(木) 9:30～16:30

※部活動については、公式戦やその直前の練習を除き、できる限り休養日としていただきますようよろしくお願いいたします。

○場所…AL123, 第1会議室

○研修講師

塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館 准教授）

○内容

- ・6月の研鑽週間で考えた内容の1部分をさらにブラッシュアップし、さらにそれを教員が複数いる場合にどのような授業ができるのかについて、全教職員が3(2)人チームを組み、模擬授業を見合いながら研修を行う。
- ・塩瀬氏の参観レポートを踏まえ、より多くの生徒にささる問いづくりを目指す。

(1)模擬授業の形式について

3(2)人のチーム計6チーム程度(20人弱)がそれぞれの部屋に分かれ、模擬授業を行う。
生徒役については、教員が務めることとする。

(2)当日の時間割について

1コマ目 9:30～10:10(AL123・第一会議室)

2コマ目 10:20～11:00(AL123・第一会議室)

3コマ目 11:10～11:50(AL123・第一会議室)

昼休憩

4コマ目 13:00～13:40(AL123・第一会議室)

5コマ目 13:50～14:30(AL123・第一会議室)

6コマ目 14:40～15:20(AL123・第一会議室)

(教職員研修)→ 塩瀬先生からの助言・講義 15:30～16:30(AL23)

(3)模擬授業の内容について(時間組み)

以下の観点に従って、授業の構成は40分の時間組みで行う。

□L-podを開いた場合での授業を想定(生徒が総勢70～80名)し、複数教員での効果的な指導・支援方法を実践すること。

□対話を活性化し、教科の学びに引き込むような、「思わず考えてしまう問い」を用いた授業実践を行うこと。

→単元の冒頭や、特に考えさせたい部分の前段階などに、教科に生徒たちを引き込む工夫としての「問い」など、具体的な授業のどの部分を行うかについても自由とする。

□授業後に各教科からねらいの説明と、簡単な質疑応答が取れる時間を確保すること。

※予備知識の統一を行う必要があれば、そのためのお時間を取ってもよいが、できる限り授業のために時間を使うこと。

40分の使い方の例(模擬授業は25~30分以内とする)

時間	内容
0~7	アイスブレイク(授業に必要な予備知識の統一を兼ねる) 小学校の時、どんな小説を読みましたか? 今思えば、その(発言のあったものを取り上げる)小説のテーマは何でしょうか?
7~15	問い「〇〇の小説の最後はどう異なるのか?」 ①「ある小説」を取り上げ、作者の草稿と教科書に採録されている同作品の結末が異なることを伝え、実際に異なる点を示す。 ②異なることによって、どんな変化が起こるのかについて意見を出し合い、交流する。
15~30	問い「〇〇の小説の最後について、自分が本を売り出す側だとしたら、(大衆の関心を集めそうなものという観点で)どちらの方を採用するか?」 ①考えるうえでの材料を提示するため、グループを分け、(1)□□の視点、(2)△△の視点、(3)●●の視点の三つの視点について考える ⇒ <u>3人の教員が各グループに入り、それぞれの視点についてファシリテートする(形は小さいが、ジグソーのような方法にて共有)</u> ②どちらの方を採用するか考える。
30~40	①ねらいの説明 問いや3人の教員での動きのねらいについて説明する ②意見交換・質疑応答 ねらいに基づくと、問いや3人での動き方はどうだったかについての意見交流を行う(当日はフィードバック用紙を用意します。)

アイスブレイクは必須ではありませんが、予備知識の統一等が必要であれば、この時間を使ってください。

(特に)「複数の教員の動き」、「思わず考えたいくなる問い」については授業後、ねらいとして説明できるご準備をお願いいたします。

授業終了後、ねらいのご説明をお願いいたします。
(特に複数教員での動き方について、意見交流をお願いします)

○各グループの準備(物)

- ・人数分の教材(ワークシートなど) ⇒ 印刷される場合は、各25部印刷する。
- ・授業の①ねらい、②題材、③授業についてのコメントの3点について、「Forms」にて 7月19日(火)までに入力する。
- ・授業案等のグループ内での共有
⇒最終的にねらいが伝わったかについて意見交流を行うので、事前に示す授業案のご準備は不要。
※予備知識等の統一の際に、当日より前に共有が必要な場合は、適宜資料を用意するものとします。

【当日の動き】

○タイムスケジュール

9:20	各会場に集合(集合場所は別紙をご覧ください)
9:25	尾崎校長, zoomにてご挨拶
9:30	1コマ目授業開始
11:50	休憩
12:50	4コマ目授業開始

15:20	6コマ目授業終了
15:25	全員 AL23教室集合
15:30	塩瀬氏による研修開始
16:30	研修終了

★司会について

- ・上記(40分の時間の使い方, 当日の流れ)の時間に従って, 各部屋で進行する。
- ・各授業終了後, 授業者の先生方から本日のねらいの説明の後, 観察役から意見を出し, 全体の質疑応答へ移る。
- ・参加者へ「授業参加レポート」の配布を行う。

★観察役について

- ・二人の観察役は授業を俯瞰的に観察し, フィードバックシートに沿って, 複数教員の動きや, ねらいへのアプローチがどうだったかなどのフィードバックを行う。
- ・各会場の録画を行う

★★参加者へ

今回の研修は, 6月の研鑽週間でも実践した, 思わず考えたくなる「問い」の各教科での実践を多くの教員で観察しあい, さらなる研鑽を図ること, L-podでの授業を想定した, 複数教員での効果的な指導の在り方の実践を蓄積することの2点を大きな目的としています。

貴重な実践を蓄積していくことに大きな意義があります。研修終了後, 下記のフォルダの, 「0721 教職員研修実践集」に, チームごと, ねらいに至るための①「問い」の具体, ②「複数教員での動き」の具体, ③当日の授業実践を経て気づいた点の3点について, 8月2日(月)を目途に入力してください。

終日の研修となりますが, 活発に意見交換を行い, 有意義な研修にしましょう!

今後の予定

9月 授業研鑽週間 … 「問い」に関して, 今回の研修で得た気づきや教員同士の関係性を生かし, さらなる授業研鑽を行います。

10月17日(月) L-pod シミュレーション研修 … 複数の教員での授業実践(実際に生徒がいます)を行います。

0721 第2回教職員研修会 コマ割 (敬称略) AL1 AL2

	AL1					AL2				
	教科	氏名	ねらい	題材	宣伝	教科	氏名	ねらい	題材	宣伝
1コマ目 9:30～ 10:10	地公B	三浦	日常生活(文化)に関するデータに疑問を持ち、西岸気候と東岸気候を理解する	日本の月別結婚式数のデータ	人間の諸活動は合理的です					
		戸田								
		◎中村								
2コマ目 10:20～ 11:00	英語E	原	お互いの意見を取り上げ、グループでひとつのものを作り上げていく	グループでひとつのタイトルについて考え、英文を作り、互いにシェアする	Enjoy talking !	理科A	◎岸本	ありふれた日常を科学的に解明する。	「打ち水」というありふれた日常を題材に、物理、化学、地学を分野横断的に学ぶ。	夏に暑い日に玄関先に水をまく「打ち水」。その裏に潜む衝撃の科学に迫る！
		小畑								
		青木								
3コマ目 11:10～ 11:50	理科C	勝又	3人の教員の活かし方を探る。	肝臓の機能と構造	レバーはお好き？	地公D	松田(潤)	社会課題の解決策を複数の視点から検討し、最善の策をグループで決定する。	1000万円返せと言われたら？	1000万円返せと言われたら？そもそも何で言われる？どうやって返す？その答えを授業の中で探してみてください。
		萩原								
		櫻井								
昼休み11:50～12:50										
4コマ目 13:00～ 13:40	国語A	伊藤	様々な視点から文学作品を捉え、読みを深める。	小学校の教科書に採録されている文学作品を使用する。	小学生が読んでいる「あの作品」を、もう一度読み直してみよう。複数の教員が、いろんな視点で、みなさんと文学作品の読解を楽しみます！	英語C	池田(亜)	学習した文法(比較級)を実際に用いて、理解を深める。	比較級を用いたクイズ大会	比較級の理解を深めつつ、知的好奇心を刺激するクイズショー！
		大野								
		平井								
5コマ目 13:50～ 14:30	英語D	松尾	情報量を制限して議論させる	文型の導入。スキットによる授業。	海賊王に俺はなる！	数学A	吉田	いろいろ調べて面白い結果が出てきてさらに調べたくなる	通天閣とあべのハルカス	割と古典的なネタですが問いから活動、活動から問いへとつながる面白い教材です。ご興味ください。
		林								
		大畑								
6コマ目 14:40～ 15:20	数学C	竹下	活動を通して、円順列の基本となる「何かを固定する」という考え方を深める	場合の数	皆さんには教室にいる(かもしれない)運命の相手を探してもらいます。ですが、黙っていても運命の相手が見つかるほどこの世界は甘くありません。なるべく上手に運命の相手を見つけるには、教室でどのように呼びかけますか？	国語C	佐藤(綾)	多様な視点で文学作品を捉え、読みの深め方に触れる。	小学校の教科書に採録されている文学作品を使用する。	誰もが知る「あの作品」をもう一度！様々な視点で読んでいきます
		北出								
		松田(賢)								

0721 第2回教職員研修会 コマ割 (敬称略) AL3 第一会議室

		AL3				第一会議室					
		教科	氏名	ねらい	題材	宣伝	教科	氏名	ねらい	題材	宣伝
1コマ目 9:30~10:10	英語A	諏訪	馬谷 ◎折笠	それぞれの助動詞が持つ本質をつかんだうえで、グループで考えたことを英語で表現することができる。	豊かな自己表現を「助ける」、日常的に使う表現達を体得します！題材は「学校」です！	複数の教員だからこそできる活動で、皆さんの英語力を上げていきます！久しぶり(?)の英語学習を楽しみましょう！	保体A	◎佐藤(隼)	実技を通して、様々な視点からスポーツについて考える。	高校保健体育の教科書に載っている体育理論の分野	普段かかわることの少ないスポーツを実際に体験し、新しいスポーツについて一緒に考えてみましょう。
		安田									
		牧戸									
2コマ目 10:20~11:00	国語B	井上	武内 清水	表現することで短歌の世界を楽しむ。	短歌の創作。	組み合わせの妙を楽しむ。	地公C	本山	自分が使用している教科書とは異なる視点や視覚から自分が学んだ歴史を再構成する	日清戦争を題材に世界史Bと日本史Bの教科書、図説に描かれている歴史像がこんなに違っているということを実体験し、歴史をより深め、より広げて学ぶ素地をつくり出してみる。	3年生文系の世界史研究と日本史研究のコラボ授業。3人一組、2人一組でしっかり(高校生レベルの)歴史の勉強をしてもらいます。
		高橋									
		(野口)									
3コマ目 11:10~11:50	保体B	小嶋	前川 (笠)	実技を通して、様々な視点からスポーツについて考える。スポーツを通じて多様性について考える。	高等学校保健の教科書に載っている体育理論の分野	普段関わることのないスポーツを実際に体験し、新しいスポーツについて一緒に考えてみましょう。	情報	生田 (笠嶋)	見通しを持ちながら、プログラミングでゲームを創作する。	ブロックをつなぎ合わせてプログラムを作る『Scratch』を使用する。	ゲームづくり体験

昼休み11:50~12:50

4コマ目 13:00~13:40	家庭科	山岡	竹盛	高齢者における生活の課題は何だろう？	高齢者のいる家族のロールプレイングをする。	高齢者のいる家族のロールプレイングを通して、高齢期の生活課題は何か、みなさんと考えてみましょう。	国語D	徳永 松田(賢)	平安時代の和歌の贈答を参考に、当時のコミュニケーションの在り方を学ぶ。	雅な、ある「男」の物語の中の和歌を使います。	「奥ゆかしい」ってどんな意味でしょうか？ 和歌の贈答から迫ります。
5コマ目 13:50~14:30	理科B	粟津	岡野	ワークを通して、組成式を作れるようになる。	イオンカードを用いて、ワークをする。	イオンカードを用いて、ゲーム感覚で組成式を楽しく学びましょう	数学B	田中 結城 山田	「整数」に対する理解を深める。「数学的に考える」とはどういうことか、理解を深める。	数字を使った、オリジナルの「占い」をやります。背景には「整数」の不思議な性質があります。	思わず「なんで？」と言いたくなるようなテーマを選んだつもりです。考え甲斐のあるトピックですが、肩の力を抜いて参加してもらえたらと思います。みんなでワイワイ楽しみましょう！
6コマ目 14:40~15:20	地公A	五十嵐	村山 村井	簡易ジグソー法を用いた協働学習と史料読解を通じて歴史認識を多層化する。	二項対立でとらえられがちな事象を使用する	歴史の楽しさ、奥深さを堪能しましょう。	英語B	岩崎 籠 池辺	助動詞を用いて考えを適切に表現することができる。	助動詞・Kaiken Mottos	Let's make Kaiken Mottos!

休憩

研修 15:30~16:30	AL2・3に集合										
-------------------	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第3回 教職員研修 実施要項

【ねらい】

5月から9月までの授業研鑽の取組を総括し、次年度、どのような授業を行うのかを具体的に考えるうえでの前提や、今後（塔南高校だけでなく開建高校でも）の授業研鑽の方向性を確認し、共通認識を図る。

【概要】

・日時…10月17日（月）13:30～16:30

※部活動については、公式戦やその直前の練習を除き、できる限り休養日としてください。

・場所…AL23教室

・研修講師

塩瀬 隆之氏（京都大学総合博物館 准教授）

・ねらいの主旨

これまでの研修を通して、「問い」を意識した授業設計、同教科内における、複数教員での効果的な指導について考え、実践を積み上げてきた。

今後、次年度の授業内容を具体的に考えていく上で、授業を行う上での認識を固める必要がある。

そこで、ここまでの実践を踏まえ、学びの「責任の移行モデル」⇒「ナナメの関係」という授業のフレームを参考にしながら、開建高校を目指す、「自ら学び、考えることができる」ようになる学びを実現するための方向性を全教職員で確認し、授業研鑽の観点を明らかにする。

・内容

〈事前準備〉

お送りした事前共有資料読み、「教材・教員・生徒のナナメの関係」について、考えをまとめておく。

※当日は対話を交えたワークショップに多くの時間を使います。

〈当日〉

13:30～13:50 事前に共有した資料についての補足説明（今後の授業研鑽の方向性を確認）

13:50～14:40 ワークショップ ～「ナナメの関係」を意識して、指導案を改変してみよう～

14:40～15:00 吉田先生より、ナナメの関係を意識した授業の実践報告

15:00～16:00 塩瀬先生からのお話と、授業づくりについての意見交流会

開建高校の授業づくりで立ち返るべき点とは？

○これまでの授業づくりの振り返りと、今回の研修の意図

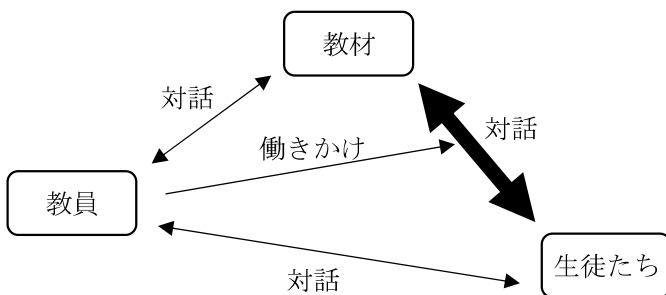
「生徒が自ら学び、考える授業」づくりに向けた取組

- 5月 … 「問いからはじまる学び」の実践(L-podの規模を体感する機会も含め)
- 6月 … 「問いからはじまる学び」を全教員が意識し、「問い」を設定したうえでの公開授業
振り返り会にて、
・「思わず考えてしまう問いとは？」
・「対話的な空間を生み出す工夫」について議論 ⇒ まとめを共有
- 7月 … 「問いからはじまる学び」のブラッシュアップとチーム指導の実践を目的とした、全教員同士での模擬授業
- 8月 … 開建高校授業体験会にて、「問いからはじまる学び」、および「対話・協働の学び」の体験を目的に、
国語・地歴公民・数学・理科・英語・保健体育 の6教科によるチーム指導を実践
- 9月 … 「問いからはじまる学び」のさらなるブラッシュアップを図り、全教員での公開授業
振り返り会にて、
・授業で大切にしていること
・授業研鑽の大きな方向性 について意見交流 ⇒ 研鑽週間振り返りへ反映
- 10月(今回) … これまでの実践を振り返り、開建高校の授業づくりにおいて立ち返るべき点を確認したい

○実践から問い直す、授業の形

生徒・教員・教材の「ナナメの関係」を意識した授業になっているか？

◎ナナメの関係



生徒たちが教材と「対話」している状態
⇒自ら学び、考えている状態 ではないか？
この状態を目指すために…
教員は、生徒と同じ教材を共有する、生徒と対等な関係
である一方、教材に関する知識や技能を有しているため、
生徒と教材の対話を活性化させるように、適切な働きかけ
をする存在であるべき。(ここで「問い」が機能する!)

①生徒が教材と対話できるようにするという観点、②教員と生徒は教材について共に学ぶ存在だという観点が入らないと、生徒が自分で学び、考える状態にはならない!!

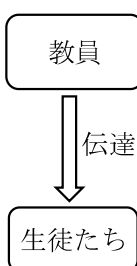
○ヨコの関係



ヨコの関係の問題点

教員が生徒たちに自分たちで考えるよう指示し、
生徒が楽しそうに勉強に向かっている、教材の意
識がなく、深まりのない授業になってしまう。

○タテの関係



タテの関係の問題点

知識のある教員がその知識を生徒へ伝達するのみ
の授業になってしまう。
生徒が自ら学びに向かおうとするのは考えづらい。

参考：石井英真『現代アメリカにおける学力形成論の展開—スタンダードに基づくカリキュラムの設計』東信堂、2011年

1. ねらい

表現の違いがもたらす効果に着目し、作品の読みの深め方に触れる

2. 生徒観および指導観

1 学期の学習を終えかけている中学 3 年生が対象である。中学 2 年生までには「読むこと」の中の、「文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などをとらえること。」「目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。」(中学校学習指導要領より)等について、「詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝えあったりする活動」(中学校学習指導要領より)を通して身に付けていると考えられる。

そこで、今回は中学生の多くが小学校で学んだであろう教材、『ごんぎつね』の結末部分の解釈について、様々な視点での解釈を考慮し、さらには記述についての筆者の意図にまで迫る。このような読みを深める活動を通して、よりメタ的な視点で文学作品に触れる方法を体感することを目指す。

3. 教材

『ごんぎつね』(小学校 4 年生教材)

4. 問い

『ごんぎつね』の結末は作者である新見南吉の草稿と教科書の記述では変更がある。

草稿は「うれしくなりました」 教科書は「うなづきました」

『ごんぎつね』の結末の表現は、「うれしくなりました」と「うなづきました」でどのような違いが認められるか。また、自分たちが小学生のころ読んだ表現はどちらで、それはなぜなのだろうか。

5. 流れ

①自己紹介・アイスブレイク (5分)

(1)自己紹介を行う (2分)

4人(数があわない場合は3人)でグループになり、誕生日が早い者(4月から早い)から簡単に自己紹介を行う

(2)「○○といえば?ゲーム」を行う (3分)

ねらい: ・アイスブレイク

・一つの問いに複数の回答があり得ること、さらには回答者の価値観が現れるということを感じさせる。

・最後のお題は「小学校の時に読む小説といえば?」

②本時の説明 (2分)

「認知度の高い文学作品の再読を行い、文学作品の読解を楽しむ」

というこの時点での目標を提示する。

③本題 A (25 分)

(1)『ごんぎつね』の話を扱うことを伝え、あらすじの確認を行う (5 分)

- ・絵本で簡単なあらすじの確認を行い、段落五までの本文を配布する。

(2)グループ内を A と B のグループに分け、それぞれ別の表現のものを読み、読後感を交流する。(15 分)

※A グループは「うなづきました」という表現のもの

B グループは「うれしくなりました」という表現のもの

- ・最初に、段落六部分が記載されたワークシートを配布する。
- ・第 1 の課題として、最後のシーンの「ごんの表情」について、ペアで考え、簡単に共有する
→もしももとのグループが 3 人などでペアに慣れない場合は生徒、もしくは教員が入る
- ・第 2 の課題として、傍線部に注目しながら、結末まで読み、どう思ったかを個人で考え、簡単に共有する

※この間、教員は iPad で中学生の解答を撮影する (全体で紹介できるよう、名前は撮影しない)

→この後もとのグループに戻った後に共有する

(3)もとのグループに戻り、課題に対する答えの共有を行う。(5 分)

(読後感が A と B で異なる場合が多いという前提のもと)

「なぜ解答が異なるのでしょうか？何か二つのグループで読んだものに違いがあるのでしょうか？」

⇒表現の違いにたどり着かせる。

④本題 B (10 分)

(1)表現の違いによる効果に迫る (7 分)

- ・「ではなぜ、「うなづきました」と「うれしくなりました」では解答が変わってくるのでしょうか？」
⇒A,B で解答に違いがあった (表情とかは使いやすい?) ところを指名し、対話しながら「うなづきました」と「うれしくなりました」の違いの一つを例に出す (想定は、「うなづきました」では感情が分からない → なぜ? → 動作だから? → そうだね。つまり、「うなづきました」は動作であって感情が分からないので、ごんの表情は分からない ということが言えそうだね。 など)
- ・「うなづきました」という表現と、「うれしくなりました」という表現では、どんな違いが生まれてくるだろう?
ごんと兵十の視点の広がり 兵十の救われ感の違い など多角的な意見が出てくるように 4 人の教員が各グループを回っていく

(2)解答を (できれば全体で) 共有する (3 分) → 時間がなければ割愛

⑤まとめ (3 分)

- ・文学作品を深く読む ここでは特に、表現に注目することで読みを深める という目標の再提示
- ・表現だけでなく、書かれた時代や作者の詳細な情報をもとに考えるなど、多角的な視点で作品を深めていくのが高校だという宣伝
- ・最終的な個人の意見についてはまとめさせたり、提出させたりはしない。
(代わりに、「みなさんが読んだ『ごんぎつね』はどちらの表現でしたか?帰って見てみてください。また、どっちかわかったら、何でそっちの表現なんだろう?って考えてみてくださいね」などの問いを最後に出し、余韻を出す。)

地理歴史科（地理総合）体験授業学習指導案

指導者・文責 中村 顕

1. 日時 令和4年8月22, 23日（火曜日）
2. 場所 龍谷大学
3. 使用教材 「わたしたちの地理総合」 p. 62, 63
4. 単元名 教科書第2章「生活文化の多様性と国際理解」1節「自然環境と生活文化」7項「大陸の西岸と東岸で暮らしはどう違うか」

5. 教材観

西岸と東岸で気候の違いが生じるのは、どのようなメカニズムによるものかを理解することは、大気循環についての理解をベースにしつつ、偏西風や季節風がどのような影響を及ぼすのかについて理解を深めるために重要である。本取り組みは、教科書にも示されているコラムを参考に、気候の違いに気づき、そのメカニズムに目を向けるために行う。その際、日本の結婚式数の月別データは、東岸代表としての日本の気候に目を向け、「ジューンブライド」という言葉を通し、西岸との違いに気づくことで、メカニズムに関心を向けるきっかけになると考えている。

<参考：ジューンブライドについて>

4, 5月は農作業の季節で結婚式が禁止されていた、Juneの語源になったギリシャの女神ヘラが結婚と出産の神だったなど諸説ある。日本への導入については梅雨の時期に落ちる売り上げを、何とかしたいと思ったホテルオークラの副社長が行動を起こし、1967年頃、海外のさまざまな結婚事情を調べる中で、ヨーロッパのジューンブライドを発見したという説がある。

出典：<https://hana-yume.net/howto/junebride-rainy-3type/>

6. 生徒観

中学校の学習の進みや知識の定着度合いはさまざまであると考えられる。しかし、理科なども含め既習であったり、知っていることの多い、梅雨を含めた日本の気候を、特に経験ベースで考えさせることで、知識の確認や前提条件を揃えることができると考えている。また開建高校に関心をもち、また自ら選択して参加している生徒であるため、参加意欲は非常に高く、議論などは積極的に行われると考えられる。取り組みを振り返る際には、その点の情報バイアスを差し引いて検討すべきである。

7. 指導観

本ワークを通じ、「人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性を持つことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解」（学習指導要領解説編, p.52）させることを目指す。その際、「生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して（中略）、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現する」（学習指導要領解説編, p.52）ことができたかどうかを、実際にはプレゼンテーションやワークシートをから評価し、意識させる。

本取り組みは生徒に既知の知識の活用を求める中で、新規の知識が身につく構成になっている。これまでの学習に不安のある生徒については、グループワークなどの活動中に教員が生徒の細かな

疑問を拾い上げることで、知識・理解を獲得できる機会とする。

8. 単元について

①単元目標

- ・地球上のあらゆる気候について、成因や特徴を理解し、世界的な分布とそのメカニズムを理解する。
- ・人々の生活や文化と気候の関係を理解する。
-

②単元の指導計画（全 12 時間）

単元	時間数	評価の観点（重点を置く観点）		
		知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう
ケッペンの気候区分	3 時間		○	
世界の気候	6 時間		○	○
食生活との関連	2 時間		○	○
後期中間テスト	1 時間	○		

③単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の梅雨について正しく理解し、データに重ね合わせて使うことができる。 ・ヨーロッパが日本と異なる気候である可能性を想定できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統計情報や文化の環境的背景を考えることができる。 ・日本のデータをもとにヨーロッパの状況を想定し、比較を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に主体的に取り組もうとする。 ・他者に自分の考えを伝えようとする。 ・他者の意見も含め、グループとしての考えがまとめられるようにする。

④評価方法（②の具体的な評価について。宿題やワークシートは 5 点満点で数値化して評価する。）

- ・知識，技能：定期テストにより確認。
- ・思考，判断，表現：授業内の応答，ワーク内での自分の意見の主張による（評価物としてはワークシートの記入内容が中心）。
- ・資料活用の技能：統計データの比較検討や分析が中心。定期テストやコメントシートで確認。

9. 本取り組みの目標

- ・気候と関連した人間の行動の違いを捉える（ヨーロッパでは 6 月は良い気候だから結婚式をしたくなり、日本では雨が多いため、結婚式を避ける）
- ・経済活動においては利益追求が行われるため、人々の行動基準を変える概念を導入することも手段の一つであることを理解する
- ・結果として、様々な文化について自然環境の影響を受けている可能性を検討できるようにする。

10. 本時の教材

タイトル：何月の結婚式をオススメしますか？

概要：社会科は暗記科目？ある文化に関するデータは、日本の気候とヨーロッパの気候の違いに気づくことができ、メカニズムを考えるきっかけとなります。すると覚えるだけだった言葉の背景が気になり始めて・・・。

<参考>

次の図1は日本の結婚式場における各月の取扱件数（実際に式が行われた数），図2は挙式のスタイルの時代的变化を示したものである。

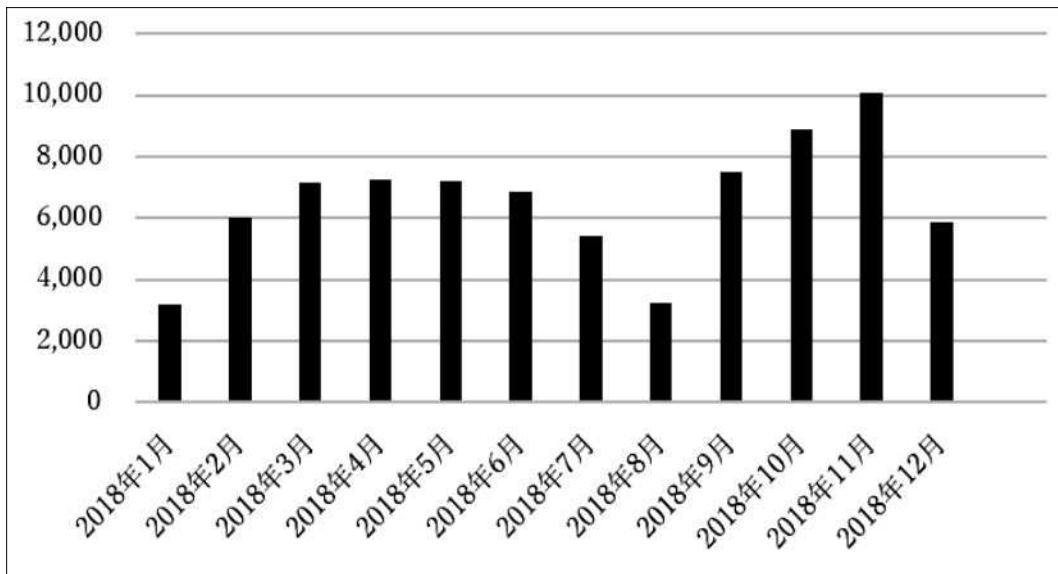


図1 結婚式場業の取扱件数

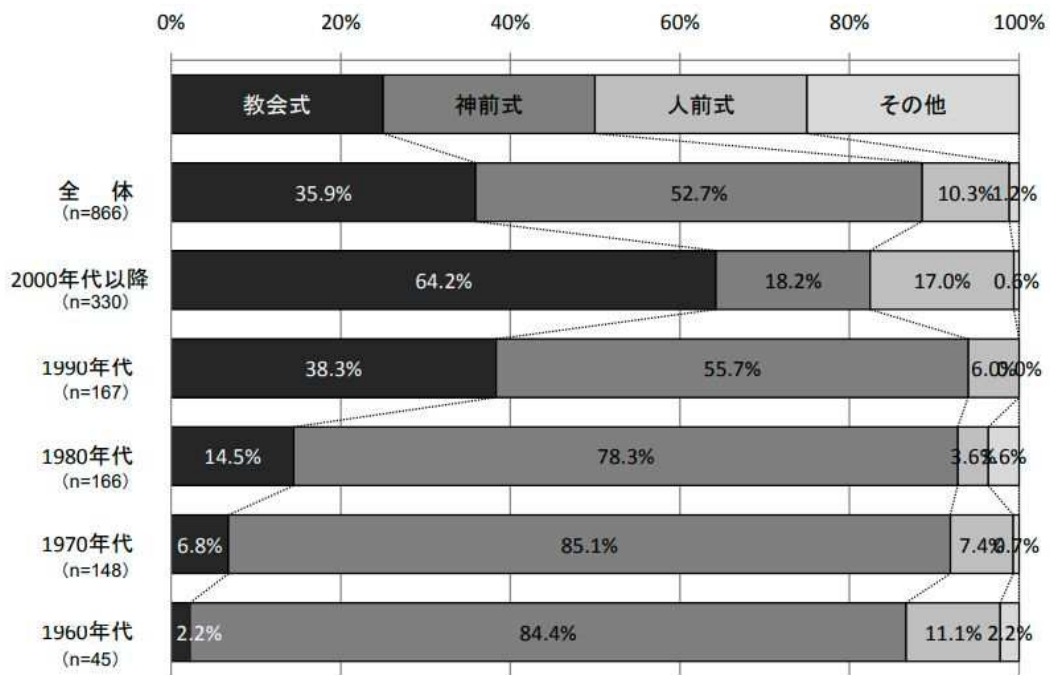


図2 挙式のスタイル

11. 本時の展開

○主な内容 ・補足事項

区分	司会担当の教員の活動	学習指導担当教員の活動	生徒の活動	指導上の留意点
導入 10分	<p>○授業内容の確認とグループのアイスブレイクを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚式に参加したことはありますか？ ・「本時は日本の気候について、結婚式をとりあげることと特徴を確認することが目的です」 ・それぞれの自己紹介（名前と中学校）をした後、誕生月当てクイズをしてください。当てられる側の人の右隣の人から、一人一つずつ順番に質問して行ってください。 <p>ただし、答える側は「はい」か「いいえ」しか答えてはいけません。</p> <p>また直接月を聞くのは無しです。</p> <p>全員を立たせたうえで、全員の誕生月が当てられたグループから着席する。（最大5分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解できていない生徒・グループの補助 ・模範演技をやってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問に応じて挙手などで意思表示を行う ・ルールを理解する ・起立し、アイスブレイクを始める 	<p>事前準備として、4人グループ（最大15グループ）を作っておき、書き込み用グラフ1部、A4の白紙3枚、カラーマーカー1本を各グループに配布しておく。</p> <p>・どんな質問をしたか？と尋ねることで、この後の各月の特徴を考えるヒントになるようにする</p>
展開 ①20分	<p>○4人グループでグラフの作成を行う（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフのタイトルに「結婚式の」を追加してください。（作業の明確化） <p>○5つずつのグループで集まり、教員が一人ずつ入ったグループを作り、そのように考えた理由とともに1分で発表する（7分）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動が停滞しているグループにヒントを与える ・5つのグループを集め、発表させ、最も参考になる、興味深い観点を示した全体で発表させるグループを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの空いている月が多いか少ないかを考える ・考えた理由と形を発表する（おおむね春と秋に多く、夏や冬に少ないこぶが描かれている 	<p>○オススメの月を決めていることになる。（一番多い月、少ない月をそれぞれ一つ作る）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適宜質問して、考えを深めさせた

	<p>・各グループで最もよく考えられたと教員が判断したグループに全体に向けて発表してもらおう (5分)</p> <p>○正解のグラフを見せ、どこが一緒だったか、違うところはどこでなぜ違ったのかを発表してくれた班のグラフについて考える。(3分)</p>		<p>はず。梅雨や台風に言及したところがあれば取り上げる。)</p> <p>・できれば参考にしたグラフを考えたグループ以外の人に発表してもらおう</p>	<p>・発表してくれたグループのメンバーにシールを渡す</p> <p>・発表してくれた人にシールを渡す</p>
<p>展 開 ② 1 5 分</p>	<p>○「ジューンブライド」という言葉について考える</p> <p>②</p> <p>・「ジューンブライド」という言葉を知っていますか？</p> <p>1</p> <p>・6月に結婚する花嫁は幸せになれるという言い伝えで、日本でも人気があります。</p> <p>5</p> <p>・でも6月は結婚式をオススメできるタイミングでしたっけ？</p> <p>・ではなぜそんな6月が良いのでしょうか。元々は外来語ですよ？ということは、6月をオススメしたい人がいて、導入したと考えられます。</p> <p>・6月の結婚式をオススメしたい人は誰ですか？今の大きいグループに別れを告げて、元の4人グループに戻り話し合ってみてください。</p> <p>(1分経過後ぐらいに)</p> <p>・こんな図も参考になりますか？(図2を提示)</p> <p>(さらに1分後)</p> <p>・隣のグループと意見を交換してみてください。</p> <p>(3分程度)</p>		<p>・1/4程度聞いたことがあると予想</p> <p>・「違いまーす」 →なぜ？</p> <p>・ヒント 「6月に結婚したい人」→どんな人？ (Ex.)「ヨーロッパに憧れがある人」</p> <p>・話し合った結果は白紙に大きく書き、隣のグループと共有しやすくする</p>	<p>ここまで7分</p>

	<p>○ヨーロッパの気候への言及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ由来の言葉なんですけど、最初からあったということは、ヨーロッパの6月は結婚式をオススメできる時期だったということがわかります。 ・では、どんな気候だったと思いますか？最初のグラフをもう一度確認して、理想的な気候の条件を挙げてください。(3分ワーク) ・いくつかのグループから一つずつ条件を挙げてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そのままのグループ(8人グループ)で活動するよう指示 ・机間巡視 	<ul style="list-style-type: none"> ・2つの4人グループの最初のアイデアを見ながら、理想的な条件を挙げて、<u>A4の白紙に書いていく</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間に留意。時間があれば、全てのグループを当てる。
<p>まとめ 5分</p>	<p>○データから、日本の気候の特徴とヨーロッパの気候の特徴が確認できたことに触れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの6月は結婚式がしやすい、暖かく日差しが多い時期(冬は日本より日照時間が短い)点を確認し、これが西ヨーロッパに多い、西岸海洋性気候と呼ばれるものであるとまとめる。(高校ではさらにこのような日本とヨーロッパの同緯度の気候の違いはなぜ生まれるかまでやることに触れる) 		<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目的と高校の学習での展開を理解する 	

京都市立開建高校 授業体験会 理科授業計画

京都市立塔南高校
青木貴弘、小畑高志、岸本徹

日時	令和4年8月22日(月) および23日(火) 15:10 - 16:00
場所	龍谷大学 深草キャンパス 22号館2階205教室
対象	中学3年生 約50名(22日) または約25名(23日)
単元	分野横断 化学基礎: 物質の状態変化 地学基礎: 海陸風循環(明示的には触れない)
教材	○ 実験ブース: 乾湿温度計実験、蒸発熱実験、気流実験、気球実験 ○ ワークシート
内容	「なぜ打ち水をすると涼しくなるのか」という問いをもとに、次の二つの現象を学ぶ: ○ 水が蒸発する際に、周囲から熱を奪う。 ○ 温度の低いところから高いところに向かって風が生まれる。
ねらい	○ 実験で観察された現象と、問われている打ち水との関連に気づき、探究活動に必要な観察眼と考察力を培う。 ○ 生徒同士で議論し学び合うことを通して、協働力を培う。 ○ 全員が発表する機会を設け、プレゼンテーション力を培う。 ○ 本時では、水をまくことによって起こる現象の理解を優先する。現象の根本にある法則など、現象の理屈の理解は別の機会に譲る。よって温度が分子の運動エネルギーに基づくことや、温度による空気塊の密度差が気圧差と風を生むことには触れず、また打ち水と海陸風循環との関連など、別の自然現象との関連についても本時では触れない。

生徒の活動

3人1グループ（22日は約17グループ、23日は約9グループ）を作り、ジグソー学習と発表を行う。

- ジグソー学習： 教室内に設けた実験ブースを、グループ内の3人で手分けして回って情報収集し、その後グループ内で実験結果を共有して学び合う。
 - 複数の実験ブースを回って情報収集。
 - 実験の結果をグループ内で共有し、実験からわかることを議論する。必要に応じて付箋を使う。
 - 実験結果をもとに、打ち水で涼しくなる理由を議論する。必要に応じて付箋を使う。
 - A3台紙に「当初考えた仮説」、「実験からわかること」、「打ち水の効果」についてまとめる。清書してもよいし、付箋をつぎはぎしても構わない。
- 発表： 3人のうち1人が発表し、別の2人は他のグループの発表を聴きに行き、質疑または感想を述べる。
 - 発表のトップバッター係が最初に発表する。発表2分、質疑1分とし、1ターンあたり3分。
 - トップバッターが終わったら次の発表者である司会係が発表し、それが終わったら最後に記録係が発表する。

教室内の配置

教室内の配置は下図の通りとし、生徒が使用する座席を赤で示す。四隅に下記の実験ブースを設置する。

実験 A: 乾湿温度計、実験 B: 蒸発熱体験、実験 C: 気流実験、実験 D: 気球の実験または動画上映



展開

時間	生徒	教員
15:10 (15分)	アイスブレイク	挨拶。 一人に質問「暑い夏を涼しく過ごすためにどんなことしてる？」 →「緊張をほぐすためにグループ内で自己紹介しつつ、夏を涼しく過ごす方法を挙げてみよう」 打ち水の写真を数点紹介し、今回の内容が打ち水であることを確認する。 (挙げさせた涼しく過ごす方法は全体共有せず、こちらから打ち水を出す) 発問「打ち水するとなぜ涼しくなる？」→話し合っただけを立てて付箋に書く 塔南生にワークシートを配ってもらう 学習方法の説明、実験ブースの紹介
15:25 (10分)	ジグソー学習	巡回指導・・・青木 実験 A (乾湿温度計実験)・・・岸本 実験 B (蒸発熱体験) 実験 C (気流実験)・・・小畑 実験 D (気球動画)
15:35 (10分)	まとめ	A3用紙に議論をまとめる指示。
15:45 (10分)	発表	青木：タイムキープ（1ターン3分） 岸本、小畑：質疑に参加
15:55 (5分)		まとめ。答え出す。京町家と坪庭。 授業のねらいの説明。かいけん高校の理科ではこういうスキルを身につけてもらいたいのでこういう授業を体験してもらいました。かいけんで会いましょう。

必要物品

- 気流実験器 4 個 (氷&氷、氷&湯、のものをそれぞれ 2 個ずつ)
 - 煙 (ドライアイス) 中川産業 上鳥羽 一キロ 5 5 0 円 6 時から開店
 - 電気ケトル 小畑
 - クーラーボックス 小畑 氷
- 乾湿温度計
- 蒸発熱体験
 - 霧吹き 2 つ
 - 卓上扇風機 青木
- 気球の動画
- 筆記具
 - 生徒がブース回る用のクリップボード 50 個 A4 地学と改革
 - 鉛筆 50 個
 - 付箋 事務
 - 台紙 (A3)
 - マジック 1 8 班 改革・生徒部
- 実験ブースの看板

保健体育科指導案

1. めあて（ねらい）

スポーツを様々な視点から見る。スポーツの楽しさや他者と取り組むことで、一体感が生まれることを感じる。

2. 教材

保健体育 体育分野 体育理論

3. 問い

永続的理解：スポーツとはどんな形でも楽しむことができるものであることに気づく

本質的な問い：どこからどこまでがスポーツだろうか

4. 授業展開

時間	内容	留意点	生徒ボランティア
10	○アイスブレイク 1（ボッチャをする（Original Rule）） ・ 2チーム（1チーム3名程度）で試合を行う。 ・ 各チーム異なる色のボールを6球ずつ持つ。 ・ 的に向かって投げる。 ・ 投げる順番は交互。 ・ 最終的に的に近いチームの勝ち。		担当のグループに張り付き、サポートを行う。
5	○アイスブレイク 2（知っているスポーツを出す） ・ 2分間で知っているスポーツをできる限り多く付箋に書く。 ・ どこからどこまでがスポーツであるかは自分たちで概念を作り上げる。	○意見が出にくいチームには、オリンピックや体育の授業から連想させる。	
10	○発問 1（ボッチャと挙げたスポーツの違いを考える） ・ 実際に取り組んだボッチャとそれ以外のスポーツの違いについて、多角的な視点から見てみる。 ・ 座標軸（ルール・対象）が書かれた模造紙に付箋を貼り付ける。 ・ それぞれのグループごとに「理由」も明確にしながら分類分けを進める。 ・ ボッチャには生涯スポーツの要素をたくさん持っていることに気づく。いわゆる誰でもできる、簡単にできるという点に気づくことができれば良い。	○答えが出にくいチームには実際にボッチャをやった感想と、今自分たちが体育の授業で取り組んでいるスポーツに焦点化して考えさせる。	

5	○グループ発表 ・6グループの中から2~3グループほど発表する。		
5	○生涯スポーツとは ・アダプテッドスポーツともいわれる。 ・誰もが簡単に取り組むことができる ・対象者を問わない。(老若男女ができる)		
10	○挙げたスポーツを「生涯スポーツ」へ変換する ・座標軸を見て、生涯スポーツの要素が少ない(ボッチャから離れているスポーツ)をグループで一つ選択し、そのスポーツを生涯スポーツに変換する。		
5	・ホワイトボードに書く。 ・グループを半分に分け、半分は他のグループのホワイトボードを見に行く、もう半分は自グループを見に来た人の対応をする。 ・時間を見て役割を交代する。		
	○まとめ		

持ち物

- ・模造紙
- ・付箋
- ・ペン (マッキー・ホワイトボードマーカー)

令和4年度 中三対象・開建の授業体験会・指導案（略）

指導者 馬谷・折笠・諏訪

1. 指導日時 令和4年8月22日（月）/23日（火）
2. 指導場所 龍谷大学深草キャンパス22号館
3. 単元名 助動詞
4. 本時の目標 それぞれの助動詞が持つ本質をつかんだうえで、グループで考えたことを英語で表現することができる。
5. 本時の展開

時間	学習項目	指導内容・学習活動	指導上の留意点
10分	Starter Orikasa	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で自己紹介 ・アイスブレイクの活動 ダイナミックな活動から、最終3～4人のグループでまとまるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、出身中学校の話も交えて、簡単な自己紹介をしておく。（日本語もOK） ・数グループを全体で共有する。 	初対面の中学生たちなので、話しやすい雰囲気を醸成する。
5分	導入 Suwa	<ul style="list-style-type: none"> ・問いの共有 開建高校に海外からの留学生が来ました。開建高校で過ごすにあたって重要な、生徒の心得を伝える必要があります。言いたい内容を的確に表現しながら、あなたが考える Kaiken Spirit を英語で伝えましょう！ <p>What is Kaiken Spirit you set? または</p> <p>What is the most important Spirit Kaiken student should have?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Kaiken Spirit の説明の補足として、助動詞が含まれている各種クレドや行動指針・企業のバリューなどを共有しながら、トピックの導入をする。 	
10分	展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー（エキスパート活動） 3か所に分かれ、助動詞（can / must / should）の特性を様々な手法を用いながら体感・定着させる。1人につき1つの助動詞をマスターする。 （否定形 not も含める）	各ブースで、メモができるワークシートを配布する。
15分	展開② Suwa	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの助動詞全般のニュアンス（相関関係的な）をシェアする。一つの例文で助動詞を変えながら共有し、例示の中からさらにその違いに気づかせる。 ・ジグソー（ホームグループ活動） ・各々が得た視点の共有。それらを基に問いに向かい、グループとしてのアイデアをまとめる。 ・出てきたアイデアを踏まえ、グループとしての考えをホワイトボードにまとめる。（ポスター風？） 	グループ活動中の支援・手だて等については追って検討 <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、各グループ1台の surface 端末を ・ホワイトボードペンを生徒分もしくはグループに2本準備

			する。
7分	展開③ Umatani	・ワールドカフェ方式で、各グループのアイデアを見て回る。その後、グループ内やクラス全体でも共有する。	
3分	まとめ Umatani	・開建の学びの特徴を説明する。	

6. 言語材料 助動詞 (can / can't, must / mustn't, should / shouldn't 等)

9月学校説明会 学びの体験会 グループワーク

「開建高校の理念である『協創』を、グループでの活動を通して体験する」

ねらい

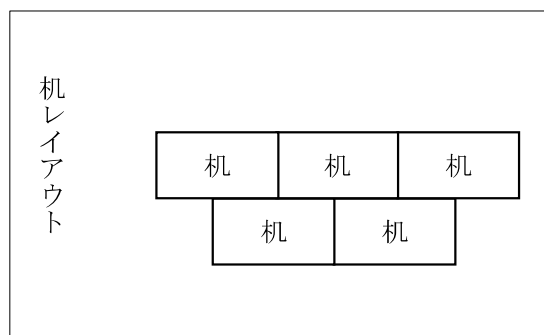
開建高校のテーマである「協創」することを体験すること。

→ある定まった方向性で議論を行い、個々人の価値観や考え方に基づく意見が交わされる中で、それらが組み合わされたり、統合されたりすることで個々の頭になかった新しいものが創発的に生み出されるということを体験する

内容

☆開始時間までに、中学生各自に自己紹介の準備をしてもらい、人がそろってきたら自己紹介

☆机は5人一班の形にする。



①開始の挨拶、教員自己紹介（1分）

②目的の説明（1分）

- ・目的は「「協創」することを体験すること」
- ・「協創」の説明を行う

⇒ある定まった方向性で議論を行い、個々人の価値観や考え方に基づく意見が交わされる中で、それらが組み合わされたり、統合されたりすることで個々の頭になかったものが創発的に生み出されるということ。

③アイスブレイク（3分）

I ○○と言えば？

⇒お題に対する答えを自分なりに考え、グループ内でタイミングを合わせて答えを共有
(自分の考えを提示してもいいんだという雰囲気づくり)

Q1：秋の風物詩と言えば？（経験や知識・興味の違いによる認識の差 揃わないことを想定）

Q2：目玉焼きにかけるものと言えば？（自分の好み・こだわり 揃わないことを想定）

Q3：有名なショッピングモールと言えば？（経験などの認識の差 おそらく揃う）

- ・9月の説明会で実施した際も Q3 については多くのグループで回答がそろった。ここで、なぜ意見がそろったら盛り上がるのか？と問い掛け、個々人の考えや感覚には相違があることを意識づける。
- ・知識や考え方、感覚が違う個々人がグループでの意見交換によって、新しい何かを創り出すそんな体験をしてもらいたいという次の活動の主旨を伝える。

④グループワーク（小計 28 分）

唯一解が想定できない場面において、グループでの意見交換を経て、最適解、納得解を自分たちで創り上げる体験を行う。

(1)設定説明（2分）

あるショッピングモールから、「13～18 歳から人気が出るショッピングモールにしたいので、力を貸してくれないか」という相談を受け、あなたたちはそのメンバーとして集まった。

そしてあなたたちは、対象のショッピングモールについて各自で簡単に情報を集めた。今日はその情報を持ち寄り、企画の方向性を定める初回の会議である。

全員で調べてきた情報や意見を交換しながら、企画の方向性を定めよう。

各自が調べてきた情報は以下の通り。

(それぞれの情報をグループ一人一人に渡しておく。情報をどのように使うかは自由。)

- A 13～18 歳の人の来客者数は、平日に少なく、土日の昼から夕方にかけて、多い傾向にある。昨年度の売り上げについては、冬の時期（12～2）の売り上げが最も高かった。
- B イベントを行う場合には、有名人を呼ぶなどの大きなお金をかけることは不可能で、スタッフもこの企画を考える自分たちのグループと数名のショッピングモールの係員で運営を行う。
- C 郊外だが、周辺には住宅も多い。敷地面積は広く、イベントを行う場合はショッピングモール中央の広場を使うことができる。バス停が近くにあるが、自転車での来客者が多い。
- D ショッピングモール内には食料品や日用品を扱う店、広い世代を対象としたアパレル店、映画館、書店、飲食店が並んでいる。
- E 以前、複数店舗で買い物をすると商品券などが当たるイベントをした際は、それぞれの店は積極的に協力をしてくれ景品も出せた。その際は一時的に来客者数も一人当たり購入金額も増加した。

(2)意見交換、議論（17分）

ステップ1 イベントを考えるために、まずは情報交換をしよう！

⇒司会、書記を立て、議論を進めていく。

※書記の中学生も発言するよう促す。

※書記のワークシートではなく、A3 用紙に議論で出たことをどんどん記入する。

ステップ2 どんな結果を目指す？

(→ 来客者数を増やす？購入金額を増やす？滞在時間を増やす？)

ステップ3 どんな案を提案するか考える

(3)グループ内で、出た意見をまとめる (1分)

A3用紙を見ながら、ステップ2、ステップ3の内容を整理し、グループメンバーで議論を振り返る。

(4)ワーク全体を踏まえ、個人の振り返りを行う (3分)

振り返りの観点は、

- ・個人的に気づいたことや学んだことは何か
- ・気づいたことや学んだことを踏まえて、自分はこれからどうなりたいと思うか

(5)個人の振り返りをグループ内で交流する (4分)

- ・一人ずつ振り返りを発表
- ・一人が言うごとに拍手をする

全グループで振り返りが終わったら、グループメンバーへのお礼を込めて、全員で拍手をする

⑤まとめ (3分)

- ・今回は情報カードで、このショッピングモールの状況をそれぞれの人に配布しましたが、班員それぞれが自分の課題意識に基づいて (もしくは役割分担をして)、事前調査としてフィールドワークを行い、仮説を立て、企画を提案し、実行まで移す というところまで開建高校では考えています。
- ・このようにして、「様々な知識や考え方、価値観を持った個人」が集まり、協働することで新たなもの、考えや価値観を創造していく、私たちは、それを「協創する」と定義しています。また、「個人も集団から学ぶ」こと、グループで協創した経験から、個人で得られた学びや気づきを大切にしています。
- ・よりよい社会の実現に向けて自分なりに前に進もうという意欲を持った人、今はそれができているかどうかは問いません。どのようにそれを見つけ、進めるのかというところから、皆さんと一緒に我々教職員も考えていこうと思っています。
- ・本日はありがとうございました。

⑥アンケート回答のお願い

終わり (計 36分)

令和4年度 グローバルフェスタ体験授業・指導案（略）

指導者

折笠阿香音/大野駿・佐藤隼平/笠舞一騎

1. 指導日時 令和4年12月10日（土）13：40～14：30
2. 指導場所・対象 西京高校・エンプラ室 中学2年生40名
3. 単元名 開建，体験！－教科をまたいだ学びの広がり－
体験させたい学びの特徴：対話・協働の学び／問いから始まる学び
問い「国際スポーツ祭典では，成績以外に何をどう表彰するのがよいのか？」
4. 本時の目標 オリンピックを軸として多様な文化や価値観に触れるとともに，同じ問いでも，教科の視点によって広がりが多様である事を体感する。グループで話し合い、新たな価値を創造する。
5. 本時の展開

時間	学習項目	指導内容・学習活動	指導上の留意点
7分	Starter	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単に自己紹介（各1分程度）をしたのちアイスブレイクに入る。 ・グループ対抗でジェスチャーゲーム（英単語を体で表し、次の人に伝えていく。最後の人はミニボードに答えとなる英単語を書く。正しく伝わっていれば加点。4題行う。） 	<p>回答する際のスペリングは気にせずに書かせる。</p>
5分	導入	<p>「オリンピックについて学ぶ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックの概要を簡単に説明する。 ・オリンピックのモットーが，2021の東京大会から変更され、いままでの「Faster, Higher, Stronger」に together が追加されたことに触れる。 ・問いの共有 <p>【もし，オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅メダルの3種類に加えて，新たに4種類目のメダルを作成する事になったとき，みなさんは，どのような人に何色のメダルを贈呈したいですか。】</p>	<p>オリンピックがイメージしにくい生徒のために，東京五輪のダイジェストムービーを示す。</p> <p>問いの出し方などを工夫して，思わず考えたくなるような気持ちにさせる。</p>

12分	展開①	<p>・同じ問いに対して、各教科ではどのように考えていくのか(深めていくのか)、教科ごとの視点と展開を共有する。</p> <p><ジグソー活動></p> <p>・グループを2組ずつに分けて、英語の視点を学ぶペア・体育の視点で学ぶペアとで、各教科の授業を受ける。</p> <p><教科としての視点></p> <p>英語：近年、難民選手団が結成されて参加している事や、参加国数と比したメダル獲得国数の差などに言及し、“国際的な祭典”であるオリンピックに何が必要なのか、それをどのような形で表彰するのかを考えさせる。</p> <p><i>体育：オリンピックのワークを通じて、他者尊重や礼儀、あいさつ、感謝等のスポーツマンシップに関する学びを伝達する。</i></p> <p><説明する内容例></p> <p><i>・オリンピックの価値、オリンピズム、オリンピックムーブメント、スポーツマンシップなど。</i></p>	<p>なるべく具体的な例を出しながら、中学生がイメージできるように心がける。</p>
20分	展開②	<p>・元の4人グループに戻り、それぞれが学んだことを持ち寄りながら、問いに対するグループの答えを自由な発想で考えてもらう。</p> <p>【問い：もし、オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅メダルの3種類に加えて、新たに4種類目のメダルを作成する事になったとき、みなさんは、どのような人に何色のメダルを贈呈したいですか。】</p> <p>・グループ内で話し合いを進め、進捗に応じて他グループの様子を見に行き、交流する事も促す。</p>	<p>何も出てこなさそうなグループにはいくつかの場面設定を提案する。</p> <p>発表する際のテンプレートを準備し、難しい語彙がある場合にはフォローに入る。</p>
6分	まとめ	<p>・授業の振り返りを書き、時間があれば交流する。</p> <p>・他の教科での展開例もいくつか共有する。(理科→材質、美術→形など)</p> <p>・このように、ひとつの問いでも教科によって広がりや繋がりがあることを示し、開建高校の学びの特長として伝え、開建高校での学びについて、概要を説明する。</p> <p>(対話・協働の学び、問いから始まる学び、個に応じた学び→思わず考えたくなる→自ら学び自ら考えるへ繋がる)</p> <p>・今後の予定を知らせる。</p>	<p>今回の教科横断の特長を踏まえつつ、他教科での学びの広がりにも触れ、同じ問いでも教科によって見方・考え方・展開の仕方が異なることを伝える。</p>

6. 持ち物：ミニホワイトボード・マーカー・イレーサー 10セット、オリンピックに関する資料、Surface、プロジェクター、ワイヤレスディスプレイアダプタ、Surface 充電器

令和4年度 市立高校グローバルフェスタ(12月10日)授業案(2限目:国語・地歴)

ねらい

オリンピックを題材にした国語・地理・歴史的活動を通して、様々な見方や考え方で物事を考えることができるということ
を理解する。

流れ

①挨拶・趣旨説明(1分)

②本日の場面・問いの提示(7分)

〈場面〉

「国際オリンピック委員会(IOC)の「将来開催地委員会」は、2036年のオリンピック開催地の選定に入っていた。IOC
の見解によると、2036年のオリンピックは、若者の意見を取り入れたオリンピックにしたいと考えており、開催地の選定に
も、今後世界をけん引していく子どもたちの意見を取り入れようとしているそうだ。そこで、若者を代表して中学2年生を対
象に、「オリンピックの開催地の基準について、意見をもらいたい」という依頼が来た。

〈問い〉

「2036年の夏季オリンピックの開催地はどこがいい？」

⇒開催地の条件を考える

・この意見に対する自分なりの意見を考えさせ、グループで交流する。

③中学生を二つ(20人ずつ)に分け、国語と地理歴史の活動を別に行う(移動3分)

〈国語〉(20分)

ねらい:「どんなオリンピックがいい？」という問いに応える活動を通して、言葉がもたらす効果を意識し、抽象的・具
体的な思考法を獲得する。

(1)アイスブレイク

動詞のみ、及び形容詞のみを使って、オリンピックに採用されているスポーツを紹介するワークを行う。

クイズ形式にして、グループ内、もしくはグループ間で競う。

例)「野球」であれば、「打つスポーツです」「走るスポーツです」

「速いスポーツです」「熱いスポーツです」など

動詞よりも形容詞の方が答えるのが難しいことが予想されるが、それはなぜなのかを考えながら、「抽象的な」表
現と、「具体的な」表現の違いを意識する。

⇒形容詞は、物事の状態を表す品詞。状態は他者と情報を共有するのが難しい(説明が抽象的になりやすい)が、
より多くの人の感性に訴えることができる。

「打つ」・「走る」など、直接的な動作を意味する動詞は、意味の共有が図りやすい(説明が具体的になりやすい)
が、単なる情報に過ぎず、人の感性に訴えるような表現にはなりにくい。

(2)「どんなオリンピックがいい？」

他者が理解できる説明ができるようにしてください。

途中で助言として、抽象と具体それぞれのみで説明しても相手には伝わらない、抽象と具体の往還が必要である
ということに気づかせる。

(3)自分の意見をグループ内で交流する。

(4)ここまでの流れを振り返り、「どんなオリンピックがいいのか」を明らかにしながら、開催地の条件について考えてみよう。

〈地理歴史〉(20分)

ねらい:夏季・冬季オリンピックの今までの開催地を白地図に示し、そこからわかることを考えることで、地理的・歴史的な視点で物事を考える観点を獲得する。

(1)各5人ずつの4グループに分け、拡大コピーした白地図に、今までのオリンピック開催地をプロットしていく。

(2)プロットした地図を見ながら、どのような傾向が考えられるかについて空間的(地理的)・時間的(歴史的)な観点で分析を加えていく。

(3)各グループでの分析結果を、全体で共有し、空間的(地理的)・時間的(歴史的)な観点で物事を見るということのまとめを行う。

④部屋を一つに戻し、国語と地理歴史の活動を受けた中学生同士がグループになるように座る。(2分)

⑤②で扱った問いをもう一度考える。(12分)

「2036年の夏季オリンピックの開催地はどこがいい？」

「どんなオリンピックがいい？」という抽象的・具体的な思考法を駆使し、今までの開催地の地理的・歴史的な背景をヒントとしてグループで共有しながら、議論して出した答えを共有する。

共有する際のポイントは、どのような議論をして、その結論に至ったか。

⑥まとめ・振り返り(5分)

〈まとめ内容〉

開建高校では、「問い」を起点に、見方や考え方を獲得していく。それらを駆使して、様々な「問い」に立ち向かえるようになっていく。しかし、それは一人ではできない。一人ひとり、固有の見方や得意な考え方があるはず。それを、「対話・協働」を通じて共有することで、さらに物事を深く考えられたり、違う角度から考えられたりすることができるようになり、「問い」に立ち向かう力となっていく。

・個人で今日の学びを振り返り、グループメンバーと共有する。

終了